

令和5年度 厚木市障害者協議会 第1回 一貫した子育て・療育支援プロジェクト

日 時	令和5年6月30日（金）午後2時30分～午後4時30分
場 所	アミューあつぎ ルーム610
出席者	<p>厚木市障がい福祉課、厚木市教育委員会、厚木市健康づくり課、厚木市子ども育成課、厚木市保育課、青少年教育相談センター、厚木児童相談所、厚木保健福祉事務所保健福祉課、座間支援学校、訪問看護ステーションさつき、訪問看護ステーションもみじ、特定非営利活動法人厚木なのはな、社会医療法人社団三思会多機能型事業所にじいる、やまびこ会（厚木市自閉症児者親の会）、厚木市社会福祉協議会</p> <p>オブザーバー：一般社団法人クロスオーバー大和</p> <p>事務局：厚木市児童発達支援センター、厚木市障がい福祉課、厚木市福祉総務課（発達支援係）、厚木市障がい者基幹相談支センター</p>
1 開会	<p>出席者自己紹介 配布資料確認</p>
2 議題	<p>(1) 今年度の取組内容について</p> <p>報告者 厚木市障がい者基幹相談支援センター</p> <p>令和4年度はコロナ禍でプロジェクトの活動は12月の1回開催のみ。その中で話を進めてきたのは、一貫した療育支援体制におけるサービスマップの作成について、医療的ケア児の今後の課題について。また、児童発達支援・放課後等デイサービス事業所連絡会を行った。</p> <p>連絡会は、市内にある児童発達支援事業所28か所、放課後等デイサービスの事業所32か所（6月末現在）で、1月23日、31日に同内容で開催。1回目（1月23日）は14事業所、2回目（1月31日）は19事業所で、計33事業所が参加。グループワーク形式で各事業所の紹介、困り感、課題の情報共有の機会とした。研修の必要性は感じているが、事業所単位では難しい。送迎のニーズはあり、課題と感じているが一事業所で解決することは難しい。母親の見立てと事業所の見立ての違い、幼稚園、保育園等の他に関わっている事業所への情報提供など活発な意見交換が行われた。連絡会の開催で情報交換ができたことが良かったといった意見も多く聞かれた。令和4年度の主な取り組みは以上のとおり。</p> <p>今年度は、引き続きサービスマップについての検討、マイサポートブックについての検討を重ね、昨年度同様に、児童発達支援・放課後等デイサービス事業所連絡会を行う。</p> <p>マイサポートブックは平成28年に活用を開始している。「スターターキット」は診断のついていない未就学のお子様を活用する。「サポートキット」は診断がついたところで配布して成人期まで活用する。その他に小学校等教育委員会から就学相談や支援級に所属するときに配布しているものや肢体不自由など医療的ケア児に活用できるものもある。使うことで情報が繋がっていくものではあるが、なかなか普及、啓発、利用検証に至らない。今年度はこのプロジェクトの場で内容の見直し、周知の方法について検討していきたい。</p> <p>サービスマップの作成については、孤立している家族、支援者が一目で相談先がわかるようなものを作って欲しいとの意見があったことから、厚木市版の作成について検討していきたい。</p> <p>(2) マイサポートブックについて</p> <p>普及、啓発に課題があることや、どのように活用されているのかといった意見があった。周知の方法としても、どのような方法が良いのか意見を交換しながら、より良いものにしていければ</p>

と思う。

意見交換

- ・使用している保護者からアンケートや意見を伺ってみるのも良いのでは。
- ・医療的なケアを受けた児などは、市立病院で最初に記入してもらうのも良いのでは。
- ・データの積み重ね、親に寄り添って一緒に書くことも良いのではないかと。
- ・定期的に更新したほうが良い。アプリ化できると更新も可能。
- ・現実的なところ、子どもの存在になれるまで親が記入していくのはとても難しい。
- ・使われ方、使い方を明確化する。

【現在配布している機関】

まめの木（スターターキットを配布）、教育委員会（小学校進学時にサポートキットに追加して配布）、障がい福祉課、障がい者基幹相談支援センター

今あるマイサポートブックをどのように変えていくのが良いかと考えるが、まずはすぐに取り入れられる内容から入れていく。

（例）

- ・サポートキットに目次ページ数が入っていないので、入れる。
 - ・診断、検査の記録、手帳の有無の欄を追加する。
 - ・アレルギー、喘息、かかりつけ医の欄を追加する。
 - ・子どもの得意、不得意、好きなこと、嫌いなこと、自分探しなどを一緒に書く（練習を含む）
- 今回、挙がった意見をどのように組み込んでいくのか検討し、次回プロジェクトまでに反映したものを作成していく。

オブザーバー：一般社団法人クロスオーバー大和

各市どこも同様な情報シートのようなものがあり、どの市も同様な問題を抱えている。どのように普及するのか、どこも同じように普及で躓いている。普及するには押しの弱さがあり、仕組みの中に組み込めるわけでもない。自分の生きてきた歴史を知る（自己理解）という機会に必要な情報であるという視点で普及を進めてみても良いと思う。子どものときには書けないが、いざ本人が大人になっていく過程の中で自分のことを知る機会としても良いのではないかと。

周知に関して、たたき台としてちらし案を配布。意見を事務局へ寄せていただくよう依頼する。

(3) 支援が必要な子どものためのサービスマップについて

一宮市の「支援が必要な子どものためのサービスマップ」を参考に、周知の方法としても、どのような方法が良いのかと意見を交換しながら、より良いものにしていければと思う。

意見交換

- ・アバウトにでもサービスを知れると良い。
- ・紙で一目であるとわかりやすい。
- ・医療機関が入っていると良い。
- ・支援者が使うのか、保護者が使うのか、視点、主眼はどこにするか。
- ・子どもの状態に合わせてフローチャートになっているとなぞりやすいが、アプリになっていると使いやすい。
- ・インターネットの普及に伴い、手のひらサイズで確認できるのが望ましい。
- ・「福祉のあらし」をフローチャート化するのも良いかもしれない。

今回の意見をもとに、次回以降、作成に向けて取り組みたい。

オブザーバー：一般社団法人クロスオーバー大和

誰の視点から、どこが足りていて、足りていないのか、サービスマップを作ることで可視化されてよい。使用方法を誰が伝えてくれるのか。連絡してみたところ、「違います」と言われてしまうことが予想される。1枚に収めようとする12歳以降が非常に薄い印象がある。高校生からに関しては、体制が大きく変わる。可視化されることで、良くも悪くも、露呈されてしまう。

(4) その他

かながわ医療的ケア児支援センターの取組みについて

県央圏域における医療的ケア児等コーディネーターの主任コーディネーター活動報告

総括 オブザーバー：一般社団法人クロスオーバー大和

それぞれの立場に立つことになった役職の人も、その情報を共有して、共感していくことが大切だと思う。

以 上

3 閉会